

日本ヘルスサポート学会
第6回 学術総会

「健康経営」とヘルスサポート

基調講演

日本ヘルスサポート学会 理事
目黒 昭一郎
麗澤大学 大学院 国際経済研究科 教授

日本における「健康経営」へのアプローチ

- ◆ 経営思想・経営論の流れからみるアプローチ
- ◆ リスクマネジメントからのアプローチ
- ◆ CSR (Corporate Social Responsibility) からのアプローチ
- ◆ ソサエタル・マーケティング (Societal Marketing) からのアプローチ
- ◆ 産業保健からのアプローチ
- ◆ 社会保障・企業改革からのアプローチ
- ◆ 経済政策からのアプローチ

わが国における「健康経営」に関する主な研究活動・啓蒙活動

「経営者が従業員とコミュニケーションを密に図り、従業員の健康に配慮した企業を戦略的に創造することによって、組織の健康と健全な経営を維持していくこと」

NPO法人健康経営研究会(2006年設立)

(理事長 岡田邦夫氏、大阪ガス株式会社 統括産業医)

従業員の健康管理・健康づくりの推進は、単に医療費という経費の節減のみならず、生産性の向上、従業員の創造性の向上、企業イメージの向上等の効果が得られ、かつ、企業におけるリスクマネジメントとしても重要であることを強調。

わが国における「健康経営」に関する主な研究活動・啓蒙活動

「健康資本増進グランドデザイン研究会」

(健康会計に関する研究会)を設置。

2008年に報告書を公表。

経済産業省 (2007年)

人口減少のなか、経済成長を実現していくため、知的資本、健康資本などの人的資本の重要性が増している。そのために、個人、企業・保険者、社会における健康増進への取り組みを促すことが必要であり、企業・保険者における健康経営・健康増進が重要である。さらに、頑張る企業の取り組みの公表を促す仕組み作り、積極的な健康関連投資を引き出す上で不可欠な「効果」の「可視化」、および集団単位での個人の行動変容を引き出す仕組み作りの必要性を指摘した。

わが国における「健康経営」に関する主な研究活動・啓蒙活動

一般社団法人ヘルシーカンパニー推進協会 (Healthy Company Development Association: HCDA、2009年設立)

同協会は、ロバート H. ローゼンが提唱したヘルシーカンパニーの見方を発展させ、「日本型ヘルシーカンパニー」を提唱し、コンサルティング活動、啓蒙活動を行っている。「日本型ヘルシーカンパニー」は、個人の健康増進ならびに組織の活性化を実現する、互いに「健康自律」した個人と組織がつくる共同体であるとしている。

わが国における「健康経営」に関する主な研究活動・啓蒙活動

ヘルスケア・コミッティー株式会社 (2003年6月創設)

健康経営は、自社の従業員の健康増進に寄与するだけでなく、社会生産性の向上や社会コストの軽減につながる社会的意義の高い取り組みとして評価されるとの立場から、予防医学の研究およびサービス提供を実施する予防専門機関。

ロバート・ローゼンが提唱した健康な従業員が収益性の高い会社をつくるというヘルシー・カンパニーの概念をさらに進めて、従業員の健康を、企業に留まらず社会に不可欠な資本と捉えたシンポジウムを開催した。

日本企業における「ヘルスサポート」の課題

- ◆ 企業経営における「ヘルスサポート」の位置づけ
- ◆ 従業員に対する「ヘルスサポート」の個別的、統合的、一元提供の仕組みづくりの検討
- ◆ ソサエタル・マーケティングの視点から、「ヘルスサポート・サービス」提供の事業創成
- ◆ グローバルな視点から、企業の「ヘルスサポート」の位置づけ